

第6屆臺日環境會議 Basel公約臺日協定執行進展 報告

廢棄物管理處

大 綱

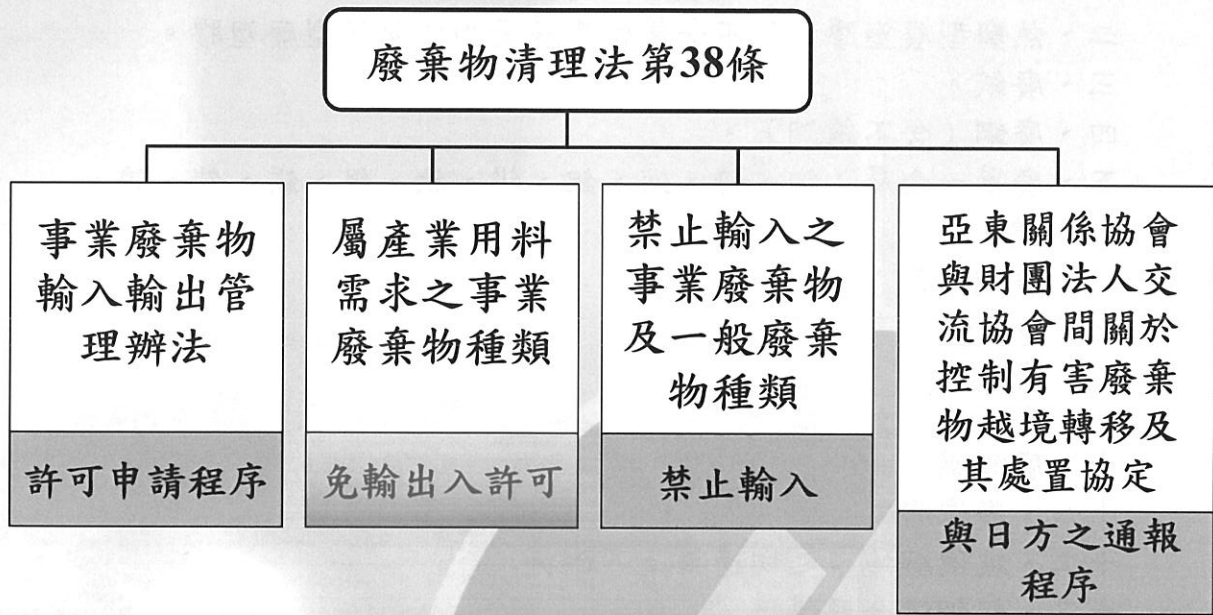
- 前言
- 臺灣廢棄物輸出輸入管理相關規定
- 臺日雙邊有害廢棄物輸出輸入實務
- 議題討論

前 言

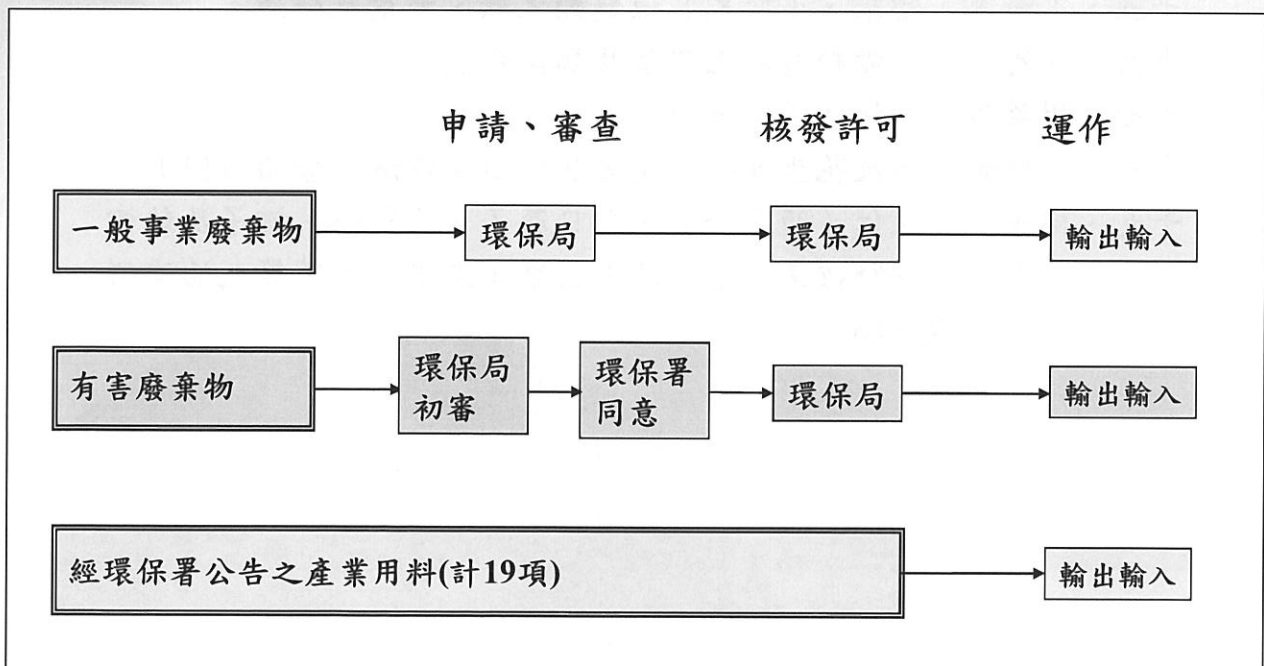
臺日簽署之「亞東關係協會與財團法人交流協會間關於控制有害廢棄物越境轉移及其處置協定」，自2006年1月1日生效實施後，雙方透過亞東關係協會與日本交流協會協助，至今執行順利。

臺灣廢棄物輸出輸入管理相關規定

法規架構



許可申請管理



屬產業用料需求之事業廢棄物種類 (2008.03.05)

- 一、廢木材。
- 二、熱塑型廢塑膠。但不含屬醫療廢棄物之熱塑型廢塑膠。
- 三、廢紙。
- 四、廢鋼(含不銹鋼)。
- 五、廢單一金屬(銅、鋅、鐵、鋁、錫、鈦、銀、鎂、銻、鎳、鎢)
- 六、廢銅碎片
- 七、廢鋅渣
- 八、廢鐵渣
- 九、廢鎂渣
- 十、廢觸媒
- 十一、廢橡膠
- 十二、玻璃纖維布之切邊料及下腳料
- 十三、鋁銅混合廢料
- 十四、廢矽晶(塊、柱、圓、片或坩堝料)

7

屬產業用料需求之事業廢棄物種類 (續)

- 十五、玉蜀黍、稻米、小麥或其他穀類之糠、麩皮及殘渣。
- 十六、豆莢植物、澱粉製品之殘渣及類似殘渣。
- 十七、甜菜渣、豆渣餅(大豆餅)。
- 十八、提煉黃豆油及花生油所產生之其他固體殘渣(含油渣餅)。
- 十九、棉子、亞麻仁(亞麻子)、向日葵子、油菜子、椰子及乾椰子肉、棕櫚類核果及子仁及玉蜀黍(玉米)胚芽等之油渣餅及固體殘渣物。

8

臺日雙邊有害廢棄物輸出輸入實務

9

臺日有害廢棄物輸出輸入情形

輸出日本			
年度	2012	2013	2014
家數	9	10	9
件數	17	15	15
噸數(公噸)	1,739.89	24,991.33	13,621.95

日本輸入			
年度	2012	2013	2014
家數	0	0	0
件數	0	0	0
噸數(公噸)	0	0	0

10

近3年輸出至日本之有害廢棄物種類

廢棄物代碼	廢棄物名稱	2012	2013	2014
A-7101	電爐製鋼過程污染控制之集塵灰或污泥	✓	✓	✓
A-8801	電鍍製程之廢水處理污泥，但下述製程所產生者除外：(1)鋁之硫酸電鍍(2)碳鋼鍍錫(3)碳鋼鍍鋁(4)伴隨清洗或汽提之碳鋼鍍錫、鋁(5)鋁之蝕刻及研磨。	✓	✓	✓
C-0101	汞及其化合物(總汞)			✓
C-0110	銅及其化合物(總銅)(僅限廢觸媒、集塵灰、廢液、污泥、濾材、焚化飛灰或底渣)	✓	✓	✓
C-0171	含鎘電池	✓		✓
C-0172	含汞之廢照明光源(燈管、燈泡)(非屬公告應回收廢棄物者)，且乾基每公斤汞濃度低於二百六十毫克者	✓	✓	✓
C-0173	含汞之廢照明光源(燈管、燈泡)(非屬公告應回收廢棄物者)，且乾基每公斤汞濃度達二百六十毫克以上者	✓	✓	✓
E-0213	電鍍金屬廢塑膠(含光碟片)	✓		
E-0217	廢電子零組件、下腳品及不良品	✓	✓	✓
E-0218	廢光電零組件、下腳品及不良品	✓	✓	✓
E-0221	含金屬之印刷電路板廢料及其粉屑	✓	✓	✓
E-0222	附零組件之廢印刷電路板	✓	✓	✓
R-2404	廢乾電池	✓	✓	✓

11

過去交流重點

- 2013年8月，臺日雙方確認，臺灣認定屬有害廢棄物者，將向日方通報(notification)，於運送過程，並附轉移文件(movement document)。非屬有害廢棄物者，將不會進行通報。
- 2014年6月，本署修正「廢棄物輸入輸出許可審查作業要點」，並納入有害廢棄物輸往日本時，應並附轉移文件(movement document)，於出口時由海關用印，以證明出口時間及離境口岸。

12

議題討論

13

法規面

議題：日方針對不須進行通報程序之廢棄物種類，輸入後之管制機制為何？

說明：

- 我國「屬產業用料需求之事業廢棄物種類」(計19項)，其輸出(入)無需申請許可，亦無需上網申報廢棄物之清理流向，故易造成管理漏洞。
- 了解日方對免輸出(入)許可廢棄物之管理規定，作為我方管理參考。

14

執行面

議題：許可審查疑義

說明：

- 臺灣向日方通報之案件，若日方審查後，有需要通知業者補件，請一併通知臺灣環保署。
- 臺灣業者已取得日方同意輸入許可後，若日方處理機構之負責人或地址有變更時，則該許可文件是否仍有效？

簡報完畢

敬請指教

第6屆臺日環境會議- Basel 公約臺日協
定執行進展報告(中文資料)

前言

2005年12月1日，臺日雙方於東京依據巴塞爾公約簽署「亞東關係協會與財團法人交流協會間關於控制有害廢棄物越境轉移及其處置協定」。

2006年1月1日協定生效實施，雙方廢棄物之輸入、輸出，依協定內容透過亞東關係協會與日本交流協會協助通報，至今執行順利。

臺灣廢棄物輸出輸入管理相關規定

一、 廢棄物清理法第 38 條

廢棄物清理法第 38 條第 1 項規定：「事業廢棄物之輸入、輸出、過境、轉口，應向直轄市、縣（市）主管機關申請核發許可文件，始得為之；其屬有害事業廢棄物者，並應先經中央主管機關之同意。但事業廢棄物經中央主管機關會商目的事業主管機關公告屬產業用料需求者，不在此限。」

二、 事業廢棄物輸入輸出管理辦法

為有效管理事業廢棄物之輸出入，及符合實務運作需求、提升行政效率，本署訂定事業廢棄物輸入輸出管理辦法，並規範申請事業廢棄物之輸出（入）許可之資格及須檢具之申請文件。並依該管理辦法訂有「廢棄物輸入輸出許可審查作業要點」，以利業者申請作業。

三、 屬產業用料需求之事業廢棄物種類

為提升及帶動我國產業競爭力，本署於 92 年首次公告「屬產業用料需求之事業廢棄物種類」，近年來為配合產業技術提升以及業者之需求陸續修訂定多項種類以促進產業發展及增進輸出入便利性。至 97 年 3 月 5 日止，總計公告廢木材、熱塑型廢塑膠、廢紙、廢鋼、廢單一金屬、廢鋅渣等 19 項(如附件 1)。

四、 禁止輸入之事業廢棄物及一般廢棄物種類

本署於 91 年 4 月 22 日公告「禁止輸入之事業廢棄物及一般廢棄物種類」，明定「有害事業廢棄物」、「廢皮革削皮及廢皮革粉」、「生活垃圾及其焚化灰渣」等 3 項禁止輸入，103 年 12 月 5 日因應黑心油品事件，增列「廢動植物油（含油脂）」禁止輸入。

臺日雙邊有害廢棄物輸出輸入實務

近3年已有台灣日鑛金屬股份有限公司等10公司申請輸出有害廢棄物至日本處理，共計47件。所有輸出均依協定規定，透過亞東關係協會通報交流協會，並獲日方(環境省)同意。

輸出之有害廢棄物主要為：電爐製鋼過程污染控制之集塵灰或污泥、廢電子零組件、下腳品及不良品、含金屬之印刷電路板廢料及其粉屑、鎳鎘電池等有害廢棄物，輸出數量約4萬多公噸(詳細資料如附件2)。

另一般事業廢棄物輸出至日本，因非屬臺日雙邊協定規範之有害廢棄物，故無須進行任何通報程序，經統計近3年輸出數量約5千700公噸(詳細資料如附件3)。

過去交流重點

本署於 2012 年 11 月 29 日函請亞東關係協會協助向日方釐清「巴塞爾公約廢棄物越境轉移-轉移文件」之適用廢棄物範圍，以利我國輸出業者順利通過日本海關，於 2013 年 8 月接獲日方答覆(如附件 4)。

依據前述回覆內容，未來臺灣認定屬有害廢棄物者，將向日方通報 (notification)，於運送過程，並附轉移文件 (movement document)。非屬有害廢棄物者，將不會進行通報。

議題討論

- 一、向日方說明我國廢棄物輸出(入)管理法規修法重點，另屬我國之「一般事業廢棄物」，因輸出至日本無需進行通報程序，故欲了解日方針對該類廢棄物輸入後之管制機制，以作為我國「屬產業用料需求之事業廢棄物種類」輸出(入)管理參考。
 - 二、臺灣向日方通報之案件，若日方審查後，有需要通知業者補件，請一併通知臺灣環保署，以免造成審理困擾。
 - 三、臺灣業者已取得日方同意輸入許可後，若日方處理機構之負責人或地址有變更時，則該許可文件是否仍有效？
-

第6回日台環境協議

議題1：バーゼル条約の実施状況

1. 国内法の枠組

バーゼル条約

国内担保法

バーゼル法

(特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律)

特定有害廃棄物等の輸出入を規制

【外為法に基づく承認】

(環境大臣は環境汚染防止に関する確認)

- 輸出: 非OECD加盟国向けでは環境大臣の確認が必要
- 輸入: 必要があれば環境大臣は意見を陳述

廃掃法

(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)

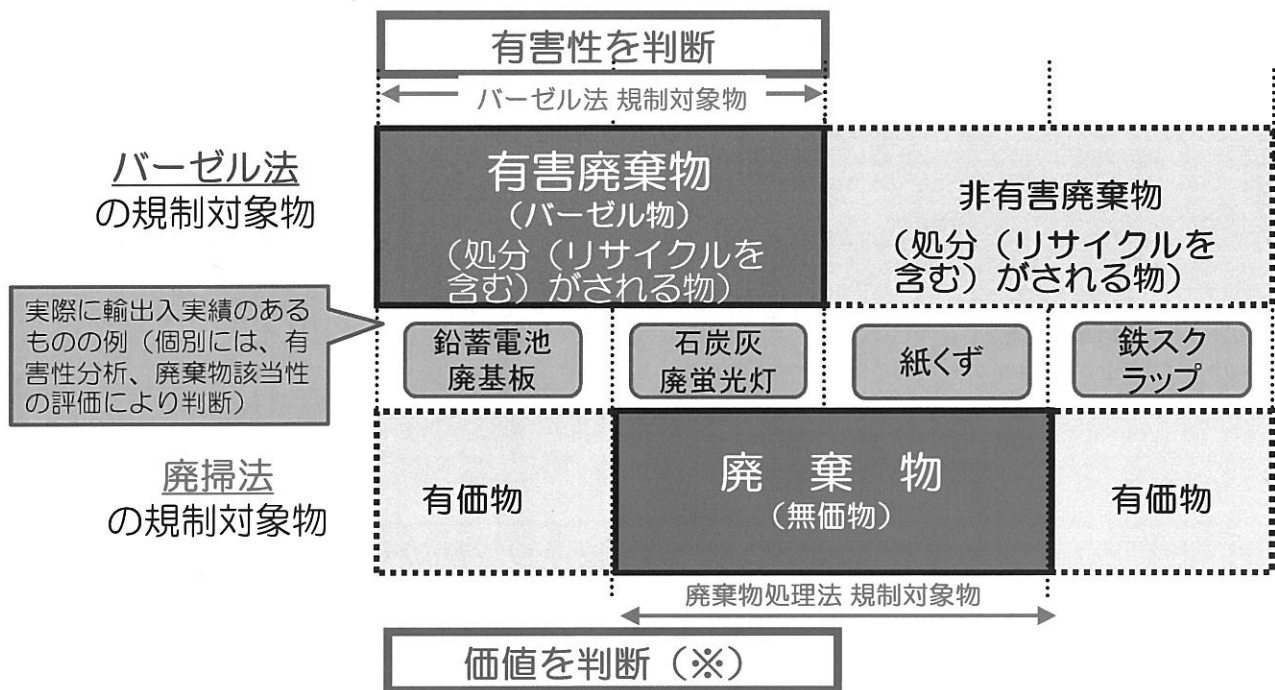
廃棄物の輸出入を規制

【廃掃法に基づく輸出確認及び輸入許可】

- 輸出・輸入の際に、環境大臣の確認(許可)が必要
(輸出・輸入の承認は、廃掃法に基づく許可を受け、別途外為法で行われる)

関係法令: 外国為替及び外国貿易法(外為法)、関税法

2. バーゼル法・廃棄物処理法の規制対象



2

3. バーゼル法の概要

1. 特定有害廃棄物等の定義
2. 輸出・輸入の承認
 - 経済産業大臣の承認 (事前通告・同意回答が必要)
 - 環境大臣の確認 (国内と同等以上の処理を確保)
3. 移動書類の交付等
 - 運搬時における移動書類の携帯義務
 - 処分完了後の環境大臣、経済産業大臣への届出等 (輸入の場合)
4. 措置命令
 - 不法輸出時の再輸入を規定 → **輸出者責任**

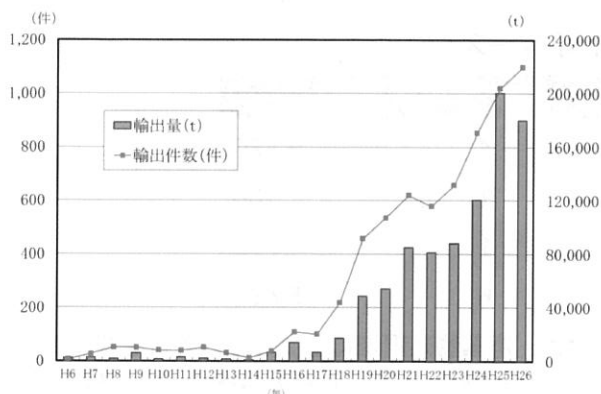
4. 廃棄物処理法（輸出入規定）の概要

1. 国内処理の原則
2. 環境大臣の輸出の確認
 - 国内で技術的に処理不可能なもの
又は相手国で再生利用されることが確実であるもの
 - 国内と同等以上の処理を確保
 - 申請者が排出事業者であること
3. 環境大臣の輸入の許可
 - 国内で適正に処理されること
 - 申請者が自ら若しくは委託により適正に処分できる者であること
4. 罰則規定
 - 未遂罪あり（無確認輸出）

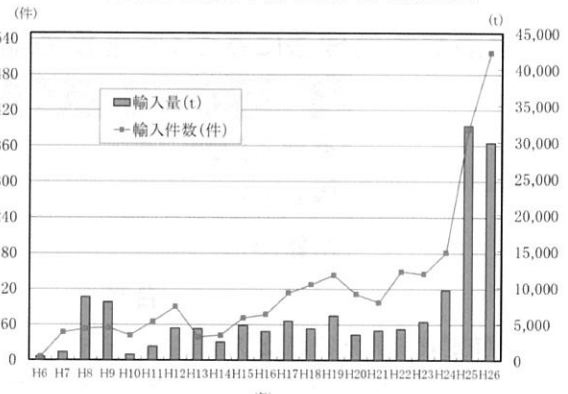
5. 特定有害廃棄物等の輸出入実績（2014年）

我が国からの輸出（括弧内は前年）			我が国への輸入（括弧内は前年）		
相手国への通告	115件 (77)	412,861トン (330,806)	我が国への通告	139件 (113)	173,735トン (86,709)
輸出の承認	79件 (72)	277,411トン (405,167)	輸入の承認	125件 (103)	139,621トン (96,273)
輸出移動書類の交付 (輸出件数・輸出量)	1,098件 (1,019)	180,035トン (200,307)	輸入移動書類の交付 (輸入件数・輸入量)	516件 (387)	29,904トン (32,222)
相手国・地域	韓国、香港、シンガポール、米国等		相手国・地域	香港、台湾、タイ、フィリピン、シンガポール等	
品目	鉛スクラップ（鉛蓄電池）、石炭灰、鉛灰等		品目	電子部品スクラップ、金属含有スラッジ、電池スクラップ（ニッケル・シム、ニッケル水素、リチウム）等	

特定有害廃棄物等の輸出量及び輸出件数の推移

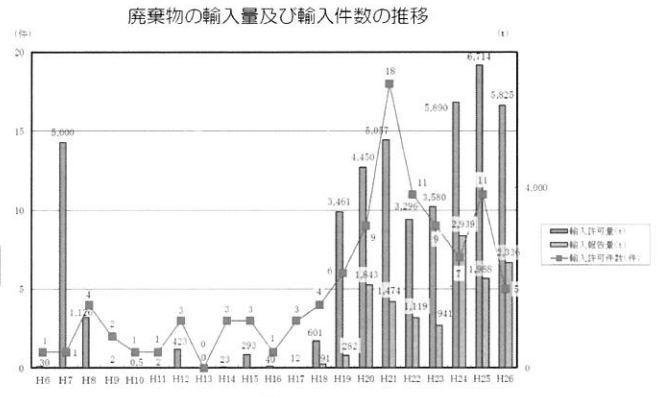
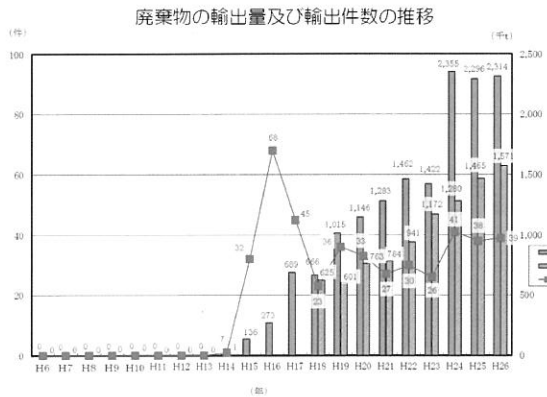


特定有害廃棄物等の輸入量及び輸入件数の推移



6. 廃棄物の輸出入実績（2014年）

我が国からの輸出（括弧内は前年）			我が国への輸入（括弧内は前年）		
輸出確認	39件 (38)	2,314,159トン (2,296,489)	輸入許可	5件 (11)	5,825トン (6,714)
輸出報告量	1,570,545トン (1,464,763)		輸入報告量	2,336トン (1,988)	
相手国・地域	韓国、香港		相手国・地域	台湾、韓国、中国 等	
品目	石炭灰		品目	廃乾電池、ヨウ素含有廃触媒、廃ブラシチック 等	



※輸出入報告量については、平成18年以降について集計。

7. 台湾からの輸入実績（2013年）

■バーゼル法に基づく特定有害廃棄物等の輸入（通告ベース）

品目	件数	通告重量(ト)
電池スクラップ	5	1,120
電子部品スクラップ	4	4,250
金属含有スラッジ	1	297
廃HIDランプ*	1	100
使用済み有機溶剤	1	100
廃シリコンスラリー	1	5
水銀廃液	1	1
合計	13	5,576

* High Intensity Discharge lamp

■廃棄物処理法に基づく廃棄物の輸入（許可ベース）

品目	件数	申請重量(ト)
電池スクラップ	4	5,380
廃HIDランプ	1	100
水銀廃液	1	1
合計	6	5,481

※特定有害廃棄物等及び廃棄物の両方に該当する場合は、廃棄物処理法に基づく輸入許可を経てからバーゼル法の手続きを行うため、同じ年でも件数が合わない。また、特定有害廃棄物等、廃棄物のいずれかのみ該当する物もあるため、同じ品目でも件数が合わない。

8. 台湾からの輸入実績（2014年）

■ バーゼル法に基づく特定有害廃棄物等の輸入（通告ベース）

品目	件数	通告重量(ト)
電子部品スクラップ	10	17,303
金属含有スラッジ	3	5,040
電池スクラップ	2	280
金属含有ダスト	1	175
要素含有溶液	1	150
合計	17	22,949

■ 廃棄物処理法に基づく廃棄物の輸入

品目	件数	申請重量(ト)
電池スクラップ	2	5,000
合計	2	5,000

※特定有害廃棄物等及び廃棄物の両方に該当する場合は、廃棄物処理法に基づく輸入許可を経てからバーゼル法の手続きを行うため、同じ年でも件数が合わない。また、特定有害廃棄物等、廃棄物のいずれかのみ該当する物もあるため、同じ品目でも件数が合わない。

9. 不法輸出入防止のための水際対策

- ◆ 環境省の全国8か所の環境省地方環境事務所が税関と連携し、バーゼル法又は廃掃法に違反するおそれがある輸出入について、貨物確認等を行い、違法行為と認定した事業者に対しては行政指導等を実施。
- ◆ 各地の税関とは、各地方環境事務所が定期的な意見交換を実施。また、毎年、検査強化月間を設け、連携して水際取締を実施。
- ◆ 地方自治体とは、廃掃法の不法輸出事案（未遂を含む）の行政指導等に係る情報を共有するとともに、廃棄物等の発生元等への立入検査等の取締りを連携して実施。



貨物確認（廃プラスチック）



スクラップ保管場所の巡視

